

法律科目試験問題（刑法） 配点 50 点

以下の【事例】における甲、乙の罪責について論ぜよ。（特別法違反は除く。）

【事例】

1. 甲（27 歳・女性、身長 155 cm、体重 42 kg）は、浪費癖があり、常に借金の返済に追われていた。甲が、スーパーマーケット P において、レジで商品の精算を済ませてサッカー台で商品を持参していたトートバッグに詰めていた際、隣で同様に精算した商品を袋に入れていた A（22 歳・女性）が、多くの高価な品物を購入していることに気づいた。甲は、自分より若い女性が高価な商品を多数購入していることに嫉妬し、また、品物が多いので、少しくらいならなくなっても気づかないのではないかと考え、A の商品をひそかに奪取することを計画した。甲は、自身の商品を全て袋に詰め、カゴを所定の位置に戻した後、A に対して、「台の下に物を落としましたよ。」と虚偽の事実を申し向け、A がしゃがんで台の下を確認している隙に、A の購入した商品の入ったスーパーのカゴから、黒毛和牛すき焼き用 500 グラム（100 グラム 500 円）2 パックのうち 1 パックを自身のトートバッグに素早く移し替えて、その場を足早に立ち去った。
2. B（30 歳・男性、身長 180 cm、体重 90 kg）は、スーパーマーケット P の私服保安員として店内を巡回していたが、甲の上記行為を全て目撃した。そのため、B は、直ちに甲を追いかけて、P の出入口から 10 メートルほど離れた大通り脇の歩道上で、甲の後方からその左肩を軽くたたいて、「ちょっとすいません。お客さん、他のお客さんの物をとりましたよね。」と声をかけたところ、甲は B を振り切るように歩いていったことから、B は、甲の左腕をつかんで止めようとした。しかし、甲は、B の手を振り払い、大通りと交差する人気のない片側一車線の道路に駆け込んだ。B は、甲の後を追って路地に入り、甲が逃げるのを阻止しようと、甲の前に回り込み、右手で甲の左腕を、左手で甲の右腕をつかんだ。
3. 甲は、このままでは警察に連れて行かれると思い、B と揉み合いながら「誰か助けて。」と大声を上げた。甲と B のいる道路に面した住宅には、甲の同僚で彼女に好意を持つ乙（25 歳・男性、身長 170 cm、体重 60 kg）が居住しており、女性の大声に気づいて家から飛び出してきた。甲は乙に気づくと、乙が以前から自分に好意を持っていることを知っていたため、彼に助けを求めれば自分を守ってくれるかもしれないと考え、咄嗟に「変な人に襲われているの。助けて。」と叫んだ。乙は、甲が B に襲われているものと勘違いし、甲を助けなければならないと考え、二人が揉みあっている場所に走って近づくと、B が誤解を正そうと声をかけようとする前に、甲の右腕を掴んでいる B の左腕を強く引っ張った。B は、甲が女性であることから同人の腕を強く掴んではいなかったため、乙が引っ張ったことで B による甲に対する拘束は簡単に外れた。その直後、乙は、B の胸を両手で強く突き、B を転倒させた。甲は、B による拘束が解けた隙に逃走した。B は、転倒後すぐに起き上がって乙に事情を説明したが、転倒によって腰部を強打し、全治一週間の打撲傷を負った。